PGM

PGM 世界ジュニアゴルフ選手権
日本代表選抜大会

2019年4月3日（水）　東北･北海道予選／松島チサンＣＣ松島Ｃ
大会結果のお知らせ

＜ＰＧＭ世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会　東北･北海道予選＞
◇４月３日◇宮城･松島チサンＣＣ松島Ｃ（15－18歳男子アウト3378ヤード、同女子イン3099ヤード、パー36ほかカテゴリー別）◇出場77人◇晴れ

＜ＰＧＭ世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会　東北･北海道予選　概況＞
コースが前日２日に季節外れの雪に見舞われ、コースコンディション回復を待って２時間30分遅れでスタートし、強風、日没などを考慮して９ホールに短縮して競技が成立した。
15―18歳の部男子は、工藤大河（山形･日大山形高３年）が強風の中で２オーバー38の好スコアをマークして１位となり、東日本決勝大会（４月20～21日、茨城･美浦ＧＣ）に進んだ。同女子は櫻井梨央（茨城･明秀日立高1年）が７オーバー43と不満の残るプレーながらトップ通過した。
13－14歳の部男子は中里通（宮城･宮城教育大付中２年）と末広大地（新潟･中条中３年）が５オーバー41で並んだが、カウントバックで中里がメダリストとなった。同女子は岩渕唯愛（北海道･屯田中央中２年）が後続を１打振り切って７オーバー43で１位通過を果たした。

＜東北･北海道予選　予選結果＞
東日本決勝大会進出者は以下の通り。

▽15－18歳男子
【１位】工藤大河（山形･日大山形高３年）＝38
【２位】嶺岸聖也（宮城･聖ウルスラ学院英智高３年）＝43
【３位】中村　凛（山形･日大山形高３年）＝44

▽同女子
【１位】櫻井梨央（茨城･明秀日立高1年）＝43
【２位】久保青空（千葉･麗澤高３年）＝44

▽13－14歳男子
【１位】中里　通（宮城･宮城教育大付中２年）＝41
【２位】末広大地（新潟･中条中３年）＝41
【３位】ゴヴォロヴスキー大河（北海道･恵庭中２年）＝43
【４位】菊池諒太郎（岩手･北上北中３年）＝43
【５位】井出太陽（長野･川上中３年）＝43

▽同女子
【１位】岩渕唯愛（北海道･屯田中央中２年）＝43
【２位】横山百合香（宮城･荒浜中３年）＝44
【３位】中山苺衣（岩手･土淵中２年）＝44
【４位】伊藤ひより（宮城･八乙女中３年）＝49

▽11－12歳男子
【１位】竹谷光祐（北海道･西岡中1年）＝41
【２位】黒金 翼（宮城･八乙女中１年）＝44
【３位】佐藤ミラー（沖縄･北玉小５年）＝44

写真：
上／15-18歳男子　工藤大河
下／15-18歳女子　櫻井梨央
©IJGA2019

▽11－12歳
【１位】中野 杏（山形・上山小６年）＝45
【２位】菊地弥香（宮城・泉松陵小６年）＝45
【３位】西本世蘭（大阪・豊川南小５年）＝46
▽９－10歳男子
【１位】岩井礼歩（新潟・小出小５年）＝46
【２位】国分脩真（山形・天童南部小３年）＝59
▽同女子
【１位】島川桃子（岩手・宇部小５年）＝42
【２位】半澤かんな（福島・長瀬小５年）＝44
【３位】根田うの（北海道・大曲東小５年）＝45
▽７―８歳男子
【１位】林田聖也（福岡・吉田小２年）＝40

※同スコアの順位は18番からのカウントバックによる
（注） ４月以降の進学校、新学年で記載

＜ＰＧＭ世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会　東北・北海道予選＞
◇15―18歳の部男子◇４月３日◇宮城・松島チサンＣＣ松島Ｃ（3378ヤード、パー36）
工藤大河（山形・日大山形高３年）が強風の中を２オーバー38で回り、１位で東日本決勝大会（４月20～21日、茨城・美浦ＧＣ）に進んだ。「風が強くてアイアンでグリーンを外してボギー、が多かった」と8番まで３オーバー。それでも９番でピン奥５メートルについた。ピンを立てたまま「強めに打ったら、カップの真ん中にいってピンに当たってガン、ガンと入った」とバーディーフィニッシュした。予選には今回６回目の挑戦といい、過去５回は予選落ちしていた。「高校３年で最後なので世界ジュニアに行きたい」と力を込める。この１年間で「地道に練習して」とアプローチで拾えるようになったことと、毎日素振り400回のおかげでドライバーの方向性がよくなったという。東日本決勝大会に向け「まんべんなく、ドライバーからパターまで調整していきたい」と、初の決勝大会に備える。

＜ＰＧＭ世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会　東北・北海道予選＞
◇15―18歳の部女子◇４月３日◇宮城・松島チサンＣＣ松島Ｃ（3099ヤード、パー36）
櫻井梨央（茨城・明秀日立高1年）が２年連続で東日本決勝大会（４月20～21日、茨城・美浦ＧＣ）に進んだ。「風が強くなるのは分かっていたんですけど、ショットが乱れて、９ホール全部パットが入らなかった」と、15番では風に流されて左ＯＢになるなど７オーバー43のスコアを悔やんだ。昨年は13―14歳の部で東日本決勝大会に行ったが、世界ジュニア出場権まであと1歩の３位で逃した。「去年は100ヤード以内をチャンスに寄せられなかったので、1年間重点的に練習しました。日本の代表として世界に挑戦したい」と、準備をしてきた。1年で身長が4センチ、ドライバー飛距離が20ヤードほど伸びたという。「１つ上のカテゴリーになったので厳しいとは思いますけど頑張りたい」と、世界舞台を目指す。

＜ＰＧＭ世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会　東北・北海道予選＞
◇13―14歳の部男子◇４月３日◇宮城・松島チサンＣＣ松島Ｃ（3378ヤード、パー36）
中里 通（宮城・宮城教育大付中２年）がドライバーに苦しみながらも５オーバー41に踏みとどまって、トップで東日本決勝大会（４月20～21日、茨城・美浦ＧＣ）に進出した。9ホールに短縮されたことで「しっかりやろう」とスタートしたが、1番でティーショットを右に曲げてボギー。「３番ではおかしいぐらい右に行ってＯＢにして、第4打も右に曲げてトリプルボギーになった」と、短期決戦の序盤３ホールで４オーバーと苦しい展開。そこからパーを拾って粘った。昨年は東日本決勝大会の第１ラウンドで92の大たたきをする苦い経験を味わった。中１から伸び始めた身長は173センチで、ドライバー飛距離は290ヤードという飛ばし屋。「東日本決勝大会では練習ラウンドでしっかりグリーンの速さとかをメモして、スコアに結び付けたい。とにかくドライバーが右に行くのを修正する」と、リベンジを目指す。

写真：
上／13-14歳男子　中里 通
©IJGA2019